

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】令和2年11月12日(2020.11.12)

【公表番号】特表2019-533655(P2019-533655A)

【公表日】令和1年11月21日(2019.11.21)

【年通号数】公開・登録公報2019-047

【出願番号】特願2019-517937(P2019-517937)

【国際特許分類】

A 6 1 K	35/744	(2015.01)
C 1 2 N	1/20	(2006.01)
C 1 2 Q	1/04	(2006.01)
C 1 2 N	15/09	(2006.01)
C 1 2 N	15/01	(2006.01)
A 6 1 K	9/20	(2006.01)
A 6 1 P	1/02	(2006.01)
A 6 1 P	31/02	(2006.01)
A 6 1 K	8/99	(2017.01)
A 6 1 Q	11/00	(2006.01)

【F I】

A 6 1 K	35/744	Z N A
C 1 2 N	1/20	E
C 1 2 Q	1/04	
C 1 2 N	15/09	Z
C 1 2 N	15/01	Z
A 6 1 K	9/20	
A 6 1 P	1/02	
A 6 1 P	31/02	
A 6 1 K	8/99	
A 6 1 Q	11/00	

【手続補正書】

【提出日】令和2年9月28日(2020.9.28)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

Pediococcus株は、以下からなる群、

a)トリクロサン；

b)メントール、ユーカリプトール、チモールおよびサリチル酸メチルからなる群から選択される少なくとも個々の成分を含む精油；および

c)メントール、ユーカリプトール、チモールおよびサリチル酸メチルからなる群から選択される個々の成分；から選択される少なくとも一つの防腐剤に耐える能力を有し、

前記防腐剤は、Porphyromonas gingivalisの阻害を観察する濃度である、当該Pediococcus株について観察されたディスク拡散アッセイによって決定された阻害ハロが、Porphyromonas gingivalisの阻害ハロよりも小さい場合に、Pediococcus株は、防腐剤に耐える能力を有する

と考えられ、かつ

前記 *Pediococcus* 株および前記防腐剤は、別々、逐次、同時投与用、または混合して処方され、かつ

前記 *Porphyromonas gingivalis* が *Porphyromonas gingivalis* DSM 20709 であり、かつ

前記 *Pediococcus* 株が *Pediococcus acidilactici* 株であり、かつ

少なくとも一つの防腐剤と組み合わせた前記 *Pediococcus* 株が医薬として使用するためである、少なくとも一つの防腐剤と組み合わせた *Pediococcus* 株。

【請求項 2】

前記 *Pediococcus* 株は、以下からなる群、

a) トリクロサン；  
b) メントール、ユーカリプトール、チモールおよびサリチル酸メチルからなる群から選択される少なくとも個々の成分を含む精油；および  
c) メントール、ユーカリプトール、チモールおよびサリチル酸メチルからなる群から選択される個々の成分；から選択される少なくとも一つの防腐剤に耐える能力を有し、前記防腐剤は、*Porphyromonas gingivalis* の阻害を観察する濃度である、当該 *Pediococcus* 株について観察されたディスク拡散アッセイによって決定された阻害ハロが、*Porphyromonas gingivalis* の阻害ハロよりも小さい場合に、*Pediococcus* 株は、防腐剤に耐える能力を有すると考えられ、かつ

前記 *Pediococcus* 株および前記防腐剤は、別々、逐次、同時投与用、または混合して処方され、かつ

前記 *Porphyromonas gingivalis* が *Porphyromonas gingivalis* DSM 20709 であり、かつ

前記 *Pediococcus* 株が *Pediococcus acidilactici* 株であり、かつ

少なくとも一つの防腐剤と組み合わせた前記 *Pediococcus* 株が口腔内疾患の予防および/または治療に使用するためである、少なくとも一つの防腐剤と組み合わせた *Pediococcus* 株。

【請求項 3】

前記 *Pediococcus* 株は、以下からなる群、

a) トリクロサン；  
b) メントール、ユーカリプトール、チモールおよびサリチル酸メチルからなる群から選択される少なくとも個々の成分を含む精油；および  
c) メントール、ユーカリプトール、チモールおよびサリチル酸メチルからなる群から選択される個々の成分；から選択される少なくとも一つの防腐剤に耐える能力を有し、前記防腐剤は、*Porphyromonas gingivalis* の阻害を観察する濃度である、当該 *Pediococcus* 株について観察されたディスク拡散アッセイによって決定された阻害ハロが、*Porphyromonas gingivalis* の阻害ハロよりも小さい場合に、*Pediococcus* 株は、防腐剤に耐える能力を有すると考えられ、かつ

前記 *Pediococcus* 株および前記防腐剤は、別々、逐次、同時投与用、または混合して処方され、かつ

前記 *Porphyromonas gingivalis* が *Porphyromonas gingivalis* DSM 20709 であり、かつ

前記 *Pediococcus* 株が *Pediococcus acidilactici* 株であり、かつ

少なくとも一つの防腐剤と組み合わせた前記 *Pediococcus* 株が細菌叢構成異常、細菌叢構成異常に関連する状態の予防および/または治療に使用するためである、少

なくとも一つの防腐剤と組み合わせた Pediococcus 株。

【請求項 4】

前記 Pediococcus acidilactici 株が、受託番号 CECT 8633 の下でスペインタイプカルチャーコレクションに寄託された Pediococcus acidilactici 株である、請求項 1 から 3 のいずれか一項に記載の使用のための Pediococcus 株。

【請求項 5】

前記 Pediococcus 株は以下からなる群、トリクロサン；メントール、ユーカリプトール、チモールおよびサリチル酸メチルからなる群から選択される少なくとも個々の成分を含む精油；メントール、ユーカリトール、チモールおよびサリチル酸メチルからなる群から選択される個々の成分；およびビスグアジン、からなる群から選択される少なくとも一つの防腐剤との組み合わせである、請求項 1 ~ 4 のいずれか一項に記載の使用のための Pediococcus 株。

【請求項 6】

前記 Pediococcus 株は、トリクロサン；および、メントール、ユーカリプトール、チモールおよびサリチル酸メチルからなる群から選択される少なくとも個々の成分を含む精油、からなる群から選択される少なくとも一つの防腐剤との組み合わせである、請求項 5 に記載の使用のための Pediococcus 株。

【請求項 7】

前記防腐剤は、許容される賦形剤および／または担体と一緒に、パーソナルケア製品の形態で製剤化され、かつ前記 Pediococcus 株は、許容される賦形剤および／または担体と一緒に、パーソナルケア製品または医薬品の形態で製剤化される、請求項 1 ~ 6 のいずれか一項に記載の使用のための Pediococcus 株。

【請求項 8】

前記パーソナルケア製品は、口腔ケア製品である、請求項 7 に記載の使用のための Pediococcus 株。

【請求項 9】

前記口腔ケア製品が練り歯磨き、経口ゲル、経口スプレー、マウスリンスまたは経口分散錠剤である、請求項 8 に記載の使用のための Pediococcus 株。

【請求項 10】

前記防腐剤と Pediococcus 株が別々 (Pediococcus 株と防腐剤の投与の時間間隔を待機) に投与され、かつ時間間隔が 1 時間未満である、請求項 1 ~ 9 のいずれか一項に記載の使用のための Pediococcus 株。

【請求項 11】

治療される被験者が 30 ~ 60 秒間防腐剤を含むマウスウォッシュで自分の口をうがいするように指示され、その後、マウスウォッシュが吐き出され、前記 Pediococcus 株を含有する経口錠剤が口に導入され、ゆっくりと溶かす、請求項 10 に記載の使用のための Pediococcus 株。

【請求項 12】

前記口腔内疾患が口腔病原体によって引き起こされる、請求項 2 に記載の使用のための Pediococcus 株。

【請求項 13】

スペインタイプカルチャーコレクションに受託番号 CECT 8633 で寄託された Pediococcus acidilactici 種に属する株。

【請求項 14】

スペインタイプカルチャーコレクションに受託番号 CECT 8633 で寄託された Pediococcus acidilactici の突然変異体を得る方法であって、出発物質として寄託された CECT 8633 株を使用すること、および突然変異誘発を適用することを含み、かつ、前記取得した突然変異体は、少なくとも前記寄託株の防腐剤に耐える能力を保持または増強する、方法。